令和6年 第2回 定例教育委員会 会議録

日 時	令和6年2月22日(木) 13時55分～15時30分
場 所	阪南市役所第3・4会議室
出 席 者	<p>〈教育委員会〉</p> <p>教 育 長 橋 本 眞 一 教育長職務代理者 八 田 三 紀 委 員 辻 雅 之 委 員 水 島 浩 子 委 員 柴 崎 一 也</p> <p>〈事務局職員〉</p> <p>生涯学習部長 伊 瀬 徹 生涯学習部理事 中 野 泰 宏 生涯学習部副理事 丹 野 恒 副理事兼給食センター所長 河 野 貢 副理事兼生涯学習推進室長 矢 島 建 教育総務課長 吉 見 勝 吾 学校教育課長 石 原 慎 中央公民館長 伊 藤 典 明 生涯学習推進室参事 中 出 篤 学校教育課長代理 花 元 英 夫 学校教育課長代理 両 口 通 寛</p>
事 務 局	教育総務課総括主査 中 山 直 子
書 記	教育総務課総括主査 中 山 直 子
傍 聴 者	なし

会議の要旨

(教育長)

令和6年第2回定例教育委員会を開会する。

本会議は、出席委員が定足数に達しており、有効に成立している。

署名委員に八田委員を指名する。

◆承認事項第1号「令和6年第1回定例教育委員会会議録について」(教育総務課)

(教育長)

承認事項第1号「令和6年第1回定例教育委員会会議録について」であるが、本会議録は、教育委員会会議規則第5条第2項の規定に基づき、委員会の承認が必要である。

意見、質問等はないか。

(全委員)

意見、質問等なし。

(教育長)

承認事項第1号について、案のとおり承認されたものとする。

◆報告事項第1号「後援名義使用許可について」(教育総務課)

(教育長)

報告事項第1号「後援名義使用許可について」教育総務課の報告を求める。

(教育総務課長)

令和6年1月1日から1月31日までの間に教育委員会が後援し、名義の使用を許可した5件について、報告する。

1件目は、泉州広告株式会社主催「小学生仕事読本『お仕事ノート』」である。阪南市内の小学3・4年生を対象に、地元企業の仕事を具体的に紹介することで児童が将来の夢を描くことをアシストするというキャリア教育の副読本を作成し、配布するもので、令和6年5月24日の発行を予定している。

2件目は、大阪府立青少年海洋センター主催「海洋センタークラブ」である。同センターにおいて令和6年4月から年間を通じて随時開催するもので、幼児から高校3年生を対象に、クルージングやカヌー、キャンプファイヤーなどの海辺での野外活動プログラムが実施される。

3件目は、「泉州中学校・高等学校進学説明会2025」で、同実行委員会主催により開催される。令和6年7月7日と10月13日に、南海浪切ホールにおいて、小学6年生・中学3年生とその保護者を対象に進学説明会が実施される。

4件目は、ボックスゼロ主催「キッズマネースクール」である。令和6年3月23日・24日、エブノ泉の森ホールにおいて、4～10歳児とその保護者を対象に、

体験型の金銭教室が実施される。

5件目は、宮城復興支援センター主催「国際交流&イングリッシュキャンプ」である。令和6年1月20日から令和6年12月8日までの間に、国立吉備青少年自然の家他5カ所において、小学生を対象に、英語を使用した防災アクティビティキャンプ等の野外活動が実施される。

これらの事業は、阪南市教育委員会の後援等に関する規則第2条各号のいずれにも該当するとは認められないことから、名義の使用を許可したものである。

(教育長)

1件目の「小学生仕事読本『お仕事ノート』」は、近隣市で既に発行された現物を見たが、実際にその職に就いている方が記事提供をされていて、なかなか興味深いものだった。阪南市版の進捗状況はどうなっているか。

(学校教育課長)

主催者は昨年から阪南市内の企業等を回って出資と記事提供を依頼しているところであり、一定数の企業が集まれば出版されると聞いている。

(教育長)

各企業の従業員の写真等も掲載されており、知っている人が載っていることで、子どもたちがその職種に親しみを感じる紙面となっている。

他に、質問等はないか。

(全委員)

質問等なし。

◆報告事項第2号「阪南市学校給食センターの改修及び給食事業の再構築について」 (学校給食センター)

(教育長)

報告事項第2号「阪南市学校給食センターの改修及び給食事業の再構築について」学校給食センターの報告を求める。

(学校給食センター所長)

阪南市学校給食センターの改修及び給食事業の再構築について説明する。

これまでの経緯と今後の予定、効果額、検討事項への対応についての詳細は、資料のとおりである。

(教育長)

ただいまの報告を受けて、質問等はないか。

(柴崎委員)

改修工事期間中は小中学校ともに給食の提供方法を大きく変える必要がなく、また、給食事業の再構築後は従前の方法よりも効果額を生むということか。

(学校給食センター所長)

ご指摘のとおりである。

(教育長)

本市の提供する給食は、転入してきた子どもたちや転勤してきた教員にも、おいしくて品数が多いとかねてから好評であった。一方で、調理施設の老朽化という問題があり、本市の教育における最重要課題の一つであると考えていた。このような中、本市の厳しい財政状況の中でも学校給食センターの改修が決定し、今後も給食の提供や食育を継続できることになった。建築資材や人件費が高騰しつつある昨今、事業費の増大も懸念されるが、お金でははかることができない教育的効果があるので、市民にもなんとかご理解いただきたいと思っている。

(柴崎委員)

中学校給食を開始するにあたり、当時の学校給食センターでは中学校分まで調理するキャパシティがないということでデリバリー方式が選ばれた。当初、学校側には不安があったと思うが、教育委員会事務局が各校の給食委員会や生徒会等を通じて意見を聴いたり、生徒の反応を見たりしながら進めてきた結果、今では小学校給食から中学校給食への移行は子どもも保護者もスムーズに行えるようになった。だが今後中学校でデリバリー方式から食缶方式へ変えるとなると、教員には新たな不安が生じると思うので、事前に周知し、不安を解消する取組をしてほしい。

(教育長職務代理者)

中学校でも食缶方式になると料理を食器に取り分けることになり、今でも食べる時間が実質15分しかないのに、どう時間をやり繰りしようか悩んでいる、という現場の声を聞く。だが温かく美味しい給食を食べることができるのは喜ばしいので、うまく調整してもらいたい。

(学校給食センター所長)

中学校では給食を食べる時間が短いことは承知している。ただ、中学生ともなると配膳作業は早いと思うので、小学校の半分程度の時間は確保してほしいと各校にお願いしているところである。

(教育長)

ランチボックスによる中学校給食はどれほどの期間になるのか。

(学校給食センター所長)

平成26年度から令和6年度までの11年間となる。

(教育長)

中学校給食開始に際し、病院の食事のように一枚のトレイで温かい料理と冷たい料理を両方提供できるよう、温冷配膳車の導入も検討したが、非常に多額の費用がかかるため断念し、結果的にはランチボックスでの提供となった。当初は、料理が冷たい、メニューが少ないなどの指摘もあったが、受託業者が子どもたちや保護者の声を聴いてよく努力し、改善してくれて、どんどん美味しくなっていくという経緯がある。だから学校給食センターで調理して食缶方式で提供しようとしているのは、現在のランチボックスによるデリバリー方式が美味しくないからではなく、衛生管理上温かい料理が提供できないからというのが第一の理由である。

柴崎委員ご指摘のとおり、今回中学校にとっては大きな変化となるが、令和6年度の3学期に試行期間を設けているので、事前に教員に食缶方式の配膳を見学に行

ってもらおうなどして不安解消に努め、徐々に軌道にのせていきたい。

そもそもが、改修工事期間中は家庭弁当をお願いすることも検討しなければならないというところ、なんとか従来の方式で給食の提供を続けられることになったのは、良かったと思っている。

(辻委員)

今回の改修によって調理する方の環境が改善されるというのも大きな成果である。苦しい顔で作るよりも、快適な環境で余裕をもって子どもたちのことを思いながら作った方が、より良いものが提供できる。

(学校給食センター所長)

ご指摘どおり、現在厨房に空調設備はなく、夏は酷暑、冬は極寒の中で調理し、お湯が出ないため水で消毒している状況であるが、改修後はそれらが全て解消される。また、現在はウェット仕様の厨房をドライ運用としていて衛生面での懸念があるが、改修によりドライ仕様に転換することで、衛生環境が向上するというメリットもある。さらには、厨房機器が一新されることで、調理の効率化や仕上がりのレベルアップが期待できる。

(教育長)

辻委員から、給食を作ってくれる人の笑顔というお言葉があったが、食育というのは、給食に携わる人に実際に会って話を聞いたりすることで学ぶところが多く、市内に学校給食センターがあれば、「私たちの調理員さん」、「私たちの給食調理」を見ることができ、意義深い。

(教育長職務代理者)

牛乳パックはもうストローレス化したのか。

(学校給食センター所長)

2月14日から試行的に実施している。

(教育長職務代理者)

現場の教員から、牛乳パックに直接口をつけて飲むことは、小学生は抵抗がないが、行儀が悪いからしないようにと親から言われているため、中学生は急には飲めないと言って、牛乳を残す子どもが増えたと聞いた。牛乳パックを実際に目にしていないので保護者も困惑しているのではないかと。

(学校給食センター所長)

牛乳パックの形状が少し変わり、くちばし部分の下に牛乳溜まりがあるものになった。ストローレス化は、全国的なプラスチックごみ削減の動きがあり、国・府・府議会からの要請を受け、大阪府牛乳協会がストローレス用牛乳パックを開発し、実施しているものである。

ストローレスパックでもストローを差すことはでき、3学期中はストローを配布するので引き続きストローで飲むこともできるが、子どもたちには直飲みの練習をしてもらおう。令和6年度以降は、ストローは配布しないことになっている。

小学校からは、牛乳瓶のときのごくごく飲むことができるので、同じ牛乳ではあるが、牛乳を好きな子どもは美味しく感じるとか、牛乳を飲む児童が増えた

という声を聞く。ただ、教育長職務代理者のご指摘どおり、中学校からは真逆のことを聞き、センターとしては戸惑っているところである。

(教育長職務代理者)

各家庭でパックに直接口をつけないようにと躑をしている保護者の困惑は知っていてほしいが、一方で子どもたちはすぐに慣れるだろうと思う。直飲み抵抗がある子どもはコップを持参してもいいのか。

(学校給食センター所長)

他市町ではコップやストローの持参を認めているところもあるそうだが、多くの子どもが徐々に直飲みするようになるとのことである。

(教育長)

他に、質問等はないか。

(全委員)

質問等なし。

◆報告事項第3号「令和5年度第2回阪南市いじめ問題対策連絡協議会の会議録について」(学校教育課)

(教育長)

報告事項第3号「令和5年度第2回阪南市いじめ問題対策連絡協議会の会議録について」学校教育課の報告を求める。

(花元学校教育課長代理)

令和5年12月21日に開催した、令和5年度第2回阪南市いじめ問題対策連絡協議会について報告する。案件は、(1)対応に困るいじめ事案について、(2)校外でおこるトラブルについて、(3)数年前のいじめ事案について、であった。

詳細は資料のとおりである。

(教育長)

先日、大阪府の市立中学校3年の男子生徒が自殺した問題で、市の第三者委員会がSNS上の悪質な投稿や画像などをいじめと認定し、自殺との因果関係があったとする報告書をまとめたという報道があった。新聞記事の写しを資料として配布する。

本件の特徴は、加害者が男子生徒に直接言ったことではなく、本人を除いたSNS上での誹謗中傷、つまり陰口もいじめと第三者委員会が認定したことでいじめの範囲が広がったこと、そして、亡くなった男子生徒の遺族が市と加害生徒双方に損害賠償を求めて裁判を起す予定であり、未成年であっても提訴される可能性があることが示されたということである。特に後者のことは、中学生ともなれば法的なことも知識として知っておくべきではないかと考える。

会議録5ページ、国はインターネットやSNSでの差別について本腰を入れ、大阪府は取締りを強化しているとの委員発言がある。インターネットやSNSでの書き込みに対しての罰則化が社会的な傾向であることを、子どもたちも認識しておく

べきだ。いじめとSNSは深い相関関係にあり、現場の教員によると今のいじめ案件の何割かはSNS絡みだとのことなので、尚更である。

(教育長職務代理者)

こういった事案では、被害者はいじめを訴えたのに学校側は何もしてくれなかった、と報道される。このご時世にあって何もしなかったわけではないと思うが、なぜ記事にはそう書かれるのだろうか。例えば、アンケートを実施しただけで安心して結果を検証しなかったのではないか、組織で判断しなかったのか、学校内では対応しきれないことを外部の誰かが一緒に対応しなかったのかなど、考えてしまう。

(教育長)

新聞記事をよく読めば、「組織的な対応」を怠った、とある。この学校では、アンケートでいじめをうかがわせる記述があったにもかかわらず、校内のいじめ対策委員会を開かなかった。そのため組織的な対応ができず、被害生徒の自殺という最悪の事態を招いてしまった。それを受けて第三者委員会はいじめと自殺には密接な関連があることを認定し、組織的な対応を定めたいじめ防止対策推進法に照らして問題点を指摘したものである。

(教育長職務代理者)

校内ではいじめ事案があることについて認識はしていたはずだが。

(教育長)

推測だが、その学校は生徒指導的な旧態依然とした対応しかせず、新しい、法に則ったやり方をしなかったのではないか。その結果、学校は何もしてくれなかったと報道されたのかもしれない。

平成25年にいじめ防止対策推進法が制定され、本市では法に基づき、阪南市いじめ問題対策連絡協議会、阪南市いじめ防止対策委員会、阪南市いじめ問題再調査委員会を設置する「阪南市いじめ問題対策連絡協議会等条例」を平成31年に施行して適宜開催してきた。だが、この事案に関しては一度も開かれていなかったのかもしれない。

(教育長職務代理者)

会議録6ページ、大阪府では南にいくほどたばこや大麻を使用する未成年が多いとの委員発言がある。地域柄、本当に身近に迫ってきている現実を、大人が理解しておかなければならないと感じた。

(教育長)

他に、質問等はないか。

(全委員)

質問等なし。

◆報告事項第4号「第5回（仮称）阪南市子どもの権利に関する条例検討委員会の会議録について」（学校教育課）

(教育長)

報告事項第4号「第5回（仮称）阪南市子どもの権利に関する条例検討委員会の会議録について」学校教育課の報告を求める。

（両口学校教育課長代理）

令和5年12月11日に開催した、第5回（仮称）阪南市子どもの権利に関する条例検討委員会について報告する。案件は、（1）（仮称）阪南市子どもの権利に関する条例素案（2次案）について、（2）その他、であった。

詳細は資料のとおりである。

なお、次回の第6回検討委員会が最終回となるが、素案（3次案）の中で、これまで時間を要した論点について事前に全委員から意見を聴き取り、委員長・副委員長がそれを参考にして素案（4次案）を作成し、提案する。その内容とともに、検討委員会からの答申についても協議・検討していただく予定である。

（教育長）

ただいまの報告を受けて、質問等はないか。

（辻委員）

会議録8ページ、子ども会議というキーワードが出てくるが、諮問書の「『共創』によるまちづくり」や先日策定した第3期教育大綱の流れを汲んでの条例制定なので、本条例に入れるべきという意見には賛成する。子どもの年齢に応じてどのように声を聴くのかといった問題はあるようだが、子どもたちがどんどん参画できる体制を構築していくことが重要だと感じた。

（両口学校教育課長代理）

子どもの声を聴くというのは、先述した「時間を要した論点」の一つである。3次案を作成するに先立ち、聴き取り方が、子ども会議か、アンケートか、タブレット端末か、街頭なのか、委員の皆様の意見をいただき、最終の第6回で持ち寄って検討することとしている。委員長からは、「子ども会議」は有効な面もあるが、参加しない子どもの意見をどう聴くのか、また、その時聴きたいテーマの対象となっている子どもが「子ども会議」に参加していなければ当事者に聴いたことにはならないため、「子ども会議」という会議名を子どもの意見を聴きとる具体的な方法として条例に載せるかどうかは慎重に話し合う必要があるというご指摘があった。なお、子どもの声の聴き取り方については、具体的な方法は条例ではなく、施行規則や要綱などで定め、意見を聴きたい対象や、時世に合わせて変更しやすいようにしてはどうかという意見もある。

（教育長）

「子ども会議」を置くか置かないかという論点があり、もし置くとしてもそれを条例に入れるかどうかという論点が生じる。だから、いちばん根本となる条例に理念的な書き方をして、その運用や意見の反映方法など細かいことは規則や要綱に委ねるとというのが、一つのやり方としてある。

また、条例は大きな影響力を持つが、もし形骸化したときに、条文にある「子ども会議」を、単に子どもの意見を聴いたという弁明に使われないようにしなければならないと心配する意見も聞いた。

そして、いみじくも会議録4ページの委員の発言にあるように、一言で子どもの声を聴くといっても、子どもの気持ちをくみ取る・つらさを推し量る・思いを知ることなのか、特定の課題に対する意見や考えを聴くということなのか、定義が広すぎるように感じる。もちろん教育面では前者が非常に重要だが、文部科学省の文書やこども基本法では「意見」を聴くと表現しており、「声」とは使い分けているようだ。その点、上位法との整合性を図るため、本市でも課題について議論する場合は「意見」を聴くとすべきだろう。あれもこれも「声」では焦点が定まらないので、整理する方がいいのではないかという意見を持っている。

(水島委員)

子どもの「声」と「意見」は違う、というのを初めて認識した。

保護者として、子どもの意見を全て聞き入れていたら、とりとめのない状況になるだろうと感じる一方で、私が子どもの頃は声や意見を聴いてもらうことさえなかったことを思うと、隔世の感がある。だからこそ、子どもの権利について考える機会を持つこと、その際子どもの声や意見を聴こうとすること自体が、大人にとっては学びとなる。

また、私もどちらからと言えば「声」よりも「意見」が聴きたいと思う。一つひとつの課題について「どう思う？」と面と向かって尋ねられることで、そういう機会があるのだ、自分の意見を言っているのだ、自分の存在が肯定されているのだと感じるのは、子どもにとって大きなことである。

中高生の子どもはなかなか自分の考えていることを言わないし、親から聞いても一言二言答えるだけなので、日々手探りで子育てをしている。家庭の中でさえそのような状況なのに、学校や市はどうやって子どもたちの意見を聴きとるのだろうかと関心を持っている。保護者を含めた大人のためにも、子どもの意見聴取に努められたい。

(教育長)

こと権利や人権の問題では、当事者の意見を聴かなければならないというのが現代の主流である。では教育の当事者は、というと子どもたちだ。ところが、これまでは教員が良かれと思って自分のやり方を示し、ついてこさせるばかりで、子どもたちの意見を聴かなかった。

また、水島委員ご指摘のとおり、子どもの意見を聴くというのは、子どものためだけでなく、私がいちばん意識を変えていってほしいと思うのが教員と保護者である。子どもの意見を少しでも聴いて自分のやり方を省みてくれたら、条例制定の意義がある。

先日子どもの権利に関する資料を読んでいて最も印象的だったのは、自分のことを言えるようになった子どもは、自分の意見を聴いてもらえるので、他の人の意見も聴ける人間になる、という言葉であった。思春期の子どもは大人との会話が少なくなりがちだが、言いたいことが言えていない、という面もあるのではないか。ただ、繰り返しになるが、何でも言えばいいとなると窓口が広すぎるので、課題や問題を提起して意見を聴くのが良いと考える。

他に、質問等はないか。
(全委員)
質問等なし。

◆その他案件①「教育委員会関連行事について」(各担当課)

(教育長)
教育委員会に係る行事等について、その内容と主たる担当課を示している。
各課の報告を求める。

<学校教育課>

3月13日 公立中学校卒業証書授与式
3月15日 公立幼稚園修了証書授与式
3月18日 公立小学校卒業証書授与式

<生涯学習推進室>

3月 5日 令和5年度第1回阪南市文化財保護審議会
3月13日 第1回留守家庭児童会指定管理者選定委員会
3月21日 令和5年度第1回阪南市スポーツ推進審議会
3月22日 令和5年度第3回阪南市社会教育委員会議

<公民館>

2月24日・3月12日
〔尾崎公民館〕パソコンサポート
2月24日 〔東鳥取公民館〕自然居士の生きた時代とその足跡(講座)
〔西鳥取公民館〕エンゼルファミリー
(障がいのある子どもの音楽療法)
知って役に立つ認知症講座
2月25日 〔東鳥取公民館〕レコード喫茶in公民館
2月27日 〔西鳥取公民館〕春は着物でお出かけしませんか(着付け講座)
3月 3日 〔尾崎公民館〕子ども将棋広場
〔中央公民館〕はんなん海の学校開校式
3月17日 〔東鳥取公民館〕阪南市版社会教育士養成講座修了者企画講座
3月21日 〔西鳥取公民館〕まほうのおばさんのおはなしかご

※いずれも2月22日現在の実績・予定

(教育長)

ただいまの報告を受けて、質問等はないか。

(柴崎委員)

はんなん海の学校開校式は、小中学校の児童生徒は関わっているのか。

(中央公民館長)

海の学校の生徒は小学6年生以上の若年層を対象に募集したため、応募したのが小中学生であれば開校式にも参加する。

(教育長)

3月3日日曜日に阪南市立文化センターで開催される「はんなんSDGs未来フォーラム」というイベントの一環として開校式を行うので、海の学校の生徒となった小中学生のほか、家族と共にイベントに参加する小中学生もいる。

(教育長)

他に、質問等はないか。

(全委員)

質問等なし。

◆その他案件②「令和6年度阪南市学校園教育基本方針（案）について」（学校教育課）

(教育長)

「令和6年度阪南市学校園教育基本方針（案）について」学校教育課の説明を求める。

(学校教育課長)

今回の会議では「令和6年度阪南市学校園教育基本方針（案）」を提示し、教育委員の皆様からいただいた意見をもとに、再度検討して次回の教育委員会にて議決をいただく予定である。

方針は、令和5年9月に策定された「阪南市教育大綱」を基に作成しており、大綱と同じ基本理念と基本方針を掲げている。また、各項目の見出しは大阪府教育委員会作成の「令和6年度市町村教育員会に対する指導・助言事項」を参考に、整理して記載している。

主な変更点について、資料に基づき説明する。

(教育長)

ただいまの説明を受けて、質問等はないか。

(辻委員)

重点1に、海洋教育や海洋リテラシーについての記載がある。海洋リテラシーは海が私たちに与える影響や、私たちが海に与える影響を理解することであるが、重点10の危機管理と密接していると考えます。海をきれいにしよう、海の恵みを大切にしよう、といったことを想像しがちだが、ひとたび災害が起これば自然は牙をむく。そういう面とも連動させてほしい。

また、この方針とは直接関係ないが、今月、文部科学省が小中学校の授業時間を

5分短くし、学校の裁量で使える時間を確保することを検討しているとの報道があった。今後それが決定されれば、阪南市や大阪府はどう対応するのか。

(学校教育課長)

報道では、次期学習指導要領から授業時間を5分短縮し、短縮分を学校裁量で運用できるとあった。現行の学習指導要領で小学校は45分と決まっているため、その時間に基づいた教科等の標準時数は実施する必要があるが、学校裁量の時間が増えることになると、海洋教育や英語教育に注力するなど、学校の独自性がより発揮できるようになると考える。今後の進捗状況について注視していきたい。

(教育長)

授業時間の短縮は、大きな変革になると考える。先ほど報告事項第2号において、中学校で食缶方式の給食を喫食する時間の確保をお願いしているという学校給食センター所長の発言の際、この問題も頭をよぎった。ただ、議論は始まったばかりであり、確定ではない。また、授業時間短縮以上に特筆すべきは、学校裁量を拡大するという点である。だが、一律に短縮するのではなく、学校の事情に応じて授業時間を選択できるようにしてほしいものである。

他に、質問等はないか。

(全委員)

質問等なし。

◆その他（教育長）

(教育長)

その他、何かないか。

(柴崎委員)

気象庁の発表によると、今年の夏も記録的猛暑となる可能性があるとのことだ。市の財政が厳しい中、体育館の空調設備を整備することは難しいかもしれないが、子どもたちの健康面・体力面や、災害時は避難所となることを考慮して、なんとか対処できないか。災害時の停電を想定し、LPガスをエネルギー源とした設備を設置するなど、近隣では設置する市町が増えつつあると聞く。

(教育総務課長)

阪南市立学校のあり方検討委員会でも指摘を受け、夏季の熱中症対策は急務であるとの認識を持って内部で導入手法を検討し、令和6年度当初予算で移動式空調機器を購入する予算を計上している。3月市議会で可決されれば、今夏はそれに対応できる。

(教育長)

熱中症対策と避難所という大事な視点からのご意見に感謝する。予算措置されれば、導入に向けて進めていく。

他に、何かないか。

(全員)

なし。

(教育長)

次回の令和6年第3回定例教育委員会は、令和6年3月22日金曜日、阪南市役所第3・4会議室で開催したいが、いかがか。

(全員)

異議なし。

(教育長)

令和6年第2回定例教育委員会を閉会する。

以上